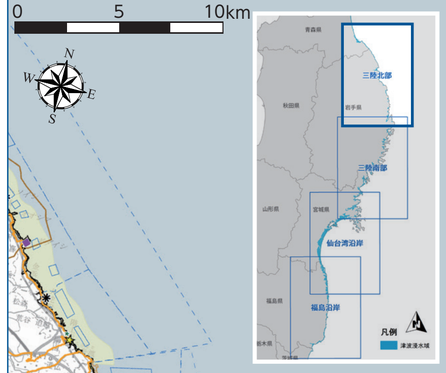
重要自然マップ 2015

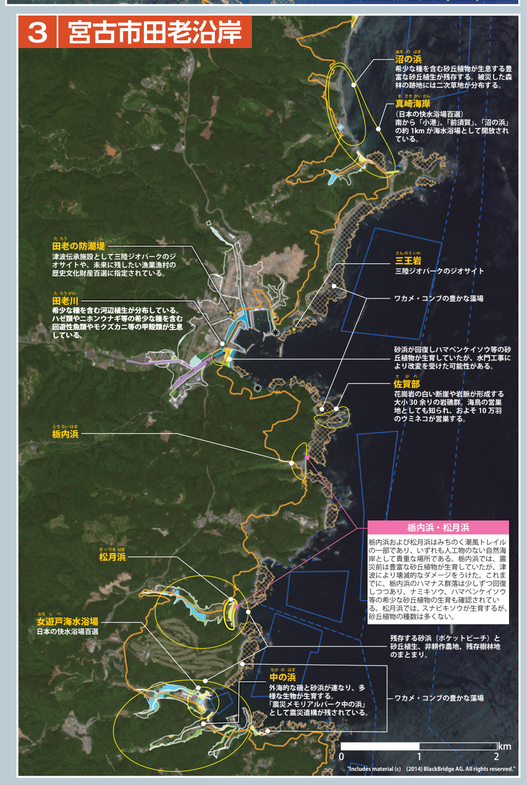
三陸北部



1 久慈湾奥部

2 野田湾奥部

3 宮古市田老沿岸



4 宮古湾

凡例

※2015年段階の情報を元に作成しています。

- 津波浸水域（拡大図では白枠）
- 重点エリア拡大図範囲

■海域

① 藻場
- 大型褐藻類藻場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（藻場）
- 生態系監視調査

② アマモ場
- アマモ場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（アマモ場）
- 生態系監視調査

③ 干潟
- 干潟(2014-2015)
- モニタリングサイト1000（干潟）
- 生態系監視調査
- 有識者による情報

■陸域

④ 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂丘植生）

⑤ 海岸断崖地の自然植生
- 海岸断崖地の自然植生

⑥ 残存樹林地
- 残存樹林地（自然林）
- 残存樹林地（二次林）
- 残存樹林地（植林等）

⑦ 樹林跡地（モザイク状の多様な撹乱環境）
- 樹林跡地（モザイク状の多様な撹乱環境）

⑧ 湿生草原
- 湿生草原（淡水性）
- 湿生草原（塩性）

⑨ 二次草原
- 二次草原

⑩ 非耕作農地（水田雑草群落）
- 非耕作農地（水田雑草群落）

⑪ 河川・湖沼等開放水域
- 河川・湖沼

■その他重要な自然を補足する情報

- レッドリスト掲載種の生育地（植物）
- レッドリスト掲載種の生息地（動物）
  ※それぞれの種名については非公開としています
- 特定植物群落（第5回基礎調査）
  ※津波浸水域周辺のみ
- 日本の白砂青松百選
- 日本の渚百選
- 日本の音風景百選
- 日本のかおり風景百選
- 日本の快水浴場百選
- 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財遺産百選
- ガンカモ類（モニタリングサイト1000（ガン・カモ類）、ガン・カモ類の生息調査）
- シギ・チドリ類（モニタリングサイト1000（シギ・チドリ類））
- 海鳥（モニタリングサイト1000（海鳥）、生態系監視調査（海鳥））
- 社寺位置
- ジオサイト（三陸ジオパーク）
- みちのく潮風トレイル
- 重点地区調査地点
- 保全について議論されている区域
- 保全対策区域
- 保護区

■法規制

- 区画漁業権
- 共同漁業権
- 国立公園
- 国定公園
- 鳥獣保護区

重要自然マップ 2015

三陸南部

0 5 10 km
N
W
E
S
三陸北部
三陸南部
仙台湾沿岸
福島沿岸
凡例
津波浸水域
明神崎
5
6b 小谷島
6c 前須賀
6a 荒神、井天島
6
大槌川・小鎚川
7
6 船越湾奥部
モニタリングサイト1000（アマモ場）
船越湾及びその周辺海域には、アマモ、タチアマモ、スガアマモ、オオアマモ、スガモの 5 種が出現する。津波によりアマモ場はほとんどが消失し、2014 年の時点でもアマモ類の繁茂状況は震災前に比べて著しく低密度なままになっている。
周辺の注目すべき場
6a 荒神、井天島
砂丘と岩浜が隆起する貴重な場、マガキ、ダンヨコエビ等が生息する。
6b 小谷島
淡水が集まる貴な湿地が存在したが、護岸整備が実施され、一部が復全区に移設された。
6c 前須賀
希少な植物や昆虫が生育・生息する砂浜が存在したが、防潮堤の工事用地として利用予定されており、保全区として一部が残される他、隣接や隣子の保全等を船越小学校と岩手県立大学が共同で実施している。
四十八坂海岸
新産地
岩礁と藻場のつながり
浪板海岸
津波と地盤沈下により砂浜が消失し、2015 年時点でも水位が戻らず砂利浜の変まである。
防潮林再生のための補植が 2015 年に実施された。
吉里吉里海岸
砂浜は大分回復し、後背の非耕作農地とのつながりが保たれている。
新産地
岩礁と藻場のつながり
0 1 2 km
"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."
7 大槌湾奥部
ミズアオイとヒオトープ再生の取組
鵜住居川河口域の左岸では、岩手県立大学と市民団体、地域住民が共同でミズアオイ保全の取組を実施している。重機で掘削したたから発見した埋土種子を保存し、ヒオトープで保全している。
大槌町のイトヨ保全活動
このエリアより上流にあたる大槌川と小槌川の湿地・湧水池は、周辺と比べ水温が安定しており、繁殖する稀有な繁殖地で、岐阜経済大学や地域のボランティアらが保全活動を行っている。埋立てにあたっては、岩手県によって代替地への移動が実施された。
大槌川
2015 年砂丘植物は確認できなかった。
根浜海岸
長く延びた特徴ある砂嘴地形は消失した。
防潮堤の改修工事の際、ハマボウフウの保全対策が実施されたものの、クロマツ林を利用した防潮林再生が計画されている。
鵜住居川
上流にダムのない河川であり、ニホンウナギ等回遊性魚類の重要な生息地である。川モモやヒロハノアブラガヤ等の湿性環境のつながりがみられる。
重点地区調査
2013 年は裸地が多かったが、2015 年の調査では、ハマヒルガオ、ハマニンニク、ハマグウ等の砂丘植生が回復し、砂浜に隣接する草地では高茎草本への変遷がみられた。［植物］ハマボウフウ［絶危］ミサゴ、カワセミ、ハヤブサ［再生種］アカハライモリ［昆虫類］コオイムシ、マダラヨコバエ等の希少な動植物が確認された。
生態系監視調査（干潟）
2014 年時点で、防波堤の工事等により潟湖にあった干潟はほぼが消失した。2015 年調査では、残存する周辺干潟でイトメ・イソシジミといったこの地域に特徴的な底生動物がみられたものの、震災前に比べ種の多様性は低下していた。
モニタリングサイト1000（アマモ場）
2014 年時点でのタチアマモ・アマモの被度はともに低く極生個体は認められなかった。
0 1 2 km
"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."
8 広田湾奥部
吉田浜
コクガン、ニホンウナギ、アシハラガニ、タコノアシ等、多くの希少な動植物が確認されており、工事にあたって環境配慮が検討されている。
気仙川
ニホンウナギ等の回遊性魚類が生息する川。藻地や非耕作農地のまとまりがみられ、オオハクチョウやシノリガモ等のガン・カモ類が飛来する。
高谷造成のため、大規模な切土工事が実施されている。
高田松原
日本の代表的な白砂青松として知られた高田松原のクロマツ植栽林
特定植物群落（4）：1 本松を除き、津波により消失した。現在工事中であり、再植林が計画されている。
重要地区調査
非耕作農地では、乾性草本群落への遷移や復田、造成地への変化がみられた。新たに形成された湿地では、希少種であるミクリの繁茂もみられた。［植物］タコノアシ、ミズオオバコ、ミズアオイ［鳥類］バン、コチドリ、［昆虫類］マダラヤンマ、ヤホシホソマダラ、その他無脊椎動物［モノアラガイ等の希少な動植物が確認された。
生態系監視調査（干潟）
2014 年調査の出現種数は 60 種で、ホソウミニナ等を含む多様性が高い生態系が発達しつつある。また、北部三陸リアス海岸では稀なアシハラガニがみられたが、有用水産種も多く、三陸リアス海岸のなかでも重要な地点となりつつある。2015 年調査では県内でも分布が少ないヒライソガニが確認された。
小友浦の引き堤による干潟保存の取組み
津波と地盤沈下によって、震災後、干拓地は干潮に保つていた。防潮堤建設にあたって、岩手県と陸前高田市が建設位置をセットバックし、干潟の一部は保存されることとなった。
小友浦
生態系監視調査（アマモ場）
2014 年調査では、高田松原側の観測点でタチアマモの被度の増加がみられた。一方、米崎側の 2 観測点では浅い海域にアマモ、深い海域にタチアマモが優占する傾向がみられた。2015 年調査でも両種の分布傾向は同様で、それぞれ被度が増加しており、震災前の深度分布に回復していることが示唆された。
米崎
小泉海岸
大野海岸
小高い場所から植生保護区が設置されており、ホシウミニナやハマボウフウ等が生育する。岩手県南部では貴重な砂丘植物が多く確認された砂浜として重要な場所である。
0 1 2 km
"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."
9 気仙沼湾西部
舞根湾の干潟保全活動
河口部の干潟は津波と地盤沈下のため消失したが、陸域に新たに生物豊かな干潟が形成された。また、地盤が上昇し始めていることから、将来的に干潟が復元する可能性がある。NPO と学識者が環境調査や環境教育活動を実施し、住民参画により汚濁緩衝帯の取り組みがなされ、震災後出現した干潟の維持・保全が継続されている。
舞根湾
舞根湾の干潟や砂浜では、ナギザノシタタリガラ、ホソウミニナ、ウネナシトマヤガイ、オオノガイ等の希少種が確認されている。
九九鳴き浜
鳴き砂の浜が残存する。震災前にスガアガニの生息が確認されたが、2013 年以降は出現していない。砂浜が現状で保全されれば、スガガニが再び生息する可能性は高いと考えられる。
海岸構造物の影となる静穏な場所では、まとまったアマモも確認される。
十八鳴浜
鳴き砂の浜（残存）
日本の渚百選
松崎尾崎
藻場や残存する砂浜、非耕作農地等の海から陸へのつながりがある環境。陸域に生息するシラヒヒョウタンウジムシ等の希少種が確認されている。
大島のアカガシ林
（特定植物群落）（湧水域外）
大島十八鳴浜のアカマツ林
（特定植物群落）
津波の影響は軽微であった。
非耕作農地、砂浜、残存樹林のまとまりがみられる。
田中浜
湧水に乏が、砂浜は回復している。用水確保に関しては、小田の浜と同様に農用揚水ポンプを利用して対策されている。
小田の浜
日本の快水浴場百選の浜。砂丘植生が残存し、砂浜に生息するコブヒヒョウタンウムシ等の希少種が確認されている。
気候や地形とのバランスあいの観点からも注目すべき場となっており、陸域緩衝帯に関してはさらなる盛り上げなど環境復旧する方向で住民との話し合いが進められている。
波路上浦湾
湾内では、コクガンやキンクロハジロ等のガン・カモ類の飛来が確認されている。
0 1 2 km
"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."
10 本吉湾奥部
保全について議論されている区域
重点地区調査
津谷川河口域では河口部に干潟や塩性湿地が残り、本流に沿ってヨシ原が分布するなど、生物にとって多様な生息・生育環境が存在する。［植物］ハマサス、アマコウガネギク、ミスアナイ［鳥類］オオガン、ミサゴ、［昆虫類］フタモンタモバチ、［その他無脊椎動物］アリアケモドキ、アカテガニ等の希少な動植物が生息・生育する。
津谷川
津谷川本流の高水敷にはまとまったヨシ原が分布し、その前面が泥質となっている箇所では、コクガンやシジュウ、イドメ、アリアケヒドキ等が生息する。
旧砂浜と海岸林が消失した背後に砂浜が自律的に再生し、ハマハコベ等の砂浜植物やスナガニがみられた。2015 年調査より防潮堤背後が遮蔽され、この砂浜は消失することになるため、スナガニの分布確保の保全対策が実施されている。
アラメやホンダワラ類が分布する藻場が存在する。
湧水（小砂利の川底）が存在し、ここまで汽水域になることから、イシマテガイ［要検討記載］が生息する。
津谷川河口右岸、気仙沼湾（岸）と接続した汽水性非耕作農地は湿地となっており、貴重なウミミドリ等の塩生植物が生育する。
河口砂州が形成されつつあり、スナガニが生息する。
平貝川下流部の汽水域は、ハマガニ、スナガニ、カクベンケイガニ、アカテガニ等の生息地になっている。ハマ 地 の 生 息 は 2015 年 時 点 に おいては宮城県ではここだけである。
外尾川
平貝川
0 1 2 km
"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."
11 志津川湾
モニタリングサイト1000（藻場）
アラメ、ワカメ等の暖海性コンブ目とホンダワラ、マコンブ等の寒海性コンブ目の同時的に分布する海域の代表的な藻場の一つ。2014 年調査では、地盤沈下の影響でアラメの生育に適した 1 ～ 3m の水深帯が岸寄りに移動し、それに対応してアラメの分布も岸寄りに移動していた。
鷲浦
震災前は湾内で最も生物多様性に富んでいた半湖で、コアマモの生育もみられた。震災後、干潟は回復していないが、幹地や転石帯には底生動物が多くみられるようになってきており、クダリガイ等の着生種も確認されている。
九九崎浜
小規模な非耕作農地のまとまりを有する。
高密度のタテアマモが分布する。
大規模なアラメ場の回復
戸倉海岸
戸倉海岸の前浜干潟は地盤沈下や防潮堤工事で、ほとんどが消失したが、協力な砂が堆積しており、幼 稚 園 の 誕 生 動物が確認された。ヒメシラトリやアカイガイ等が生息する。今後の干潟等の保全には、折立川河口との連続性の確保が重要である。
荒砥崎
荒砥崎
荒島のタブノキ群落
津波の影響は少なかった
暖な裏浜前の狄種までアマモ場が回復している。
大鎚崎
湾奥部ではアマモ場の回復が遅れているが、ウカメ・アラメ及び広範囲な前幽性藻場は回復してきている。
種島のタブノキ群落（特定植物群落）
津波の影響は少なかった。
新産地、岩礁、藻場のまとまり。
神割崎
神割崎のクロマツ群落（特定植物群落）
一部では津波による損傷がみられた。
折立川
海から陸へのつながり
［アマモ場、干潟、新たな水面、非耕作農地、残存樹林］
ウミミドリやタチドロムクサガガ等の塩生植物や、ミスアオイ等の水草がまとまって生育する。
水戸辺川河口の干潟では、防潮堤の建設にあたって、調工前に底生動物を砂泥底ごと工事外の場所に移植する保全対策が実施された。工事後の調査では、ソトオリガイ、ホソウミニナ、ウミゴマツボ、コウシクガイ、オオノガイ等の生息が確認された。
水戸辺川
米戸辺川
0 1 2 km
"Includes material (c) (2015) BlackBridge AG. All rights reserved."
12 北上川河口域
重点地区調査
調査ラインの周辺は排水工事や埋め立てが進み、震災後、新たに湿地となった箇所も半分ほどが埋め立てられ、これらのうち、調査ラインの内陸側に残った湿地ではリュウノヒゲモの繁茂や水際植生の再生が進行がみられた。［植物］タコノアシ、リュウノヒゲモ、ミズアオイ、ミクリ、［鳥類］ミサゴ、イヌワシ、［魚類］ミナミメダカ、［昆虫類］ヒメマイトンボ、［その他無脊椎動物］アカテガニ、ヤマトシジミ等希少な動植物を確認した。
北上川
豊かな水量をたたえ、河口域に広い開放的な空間を形づくっており、オオハクチョウが飛来するなど、多様な生物に生息・生育の場を提供する。
長面地区
震災後浸水し、オタクグポチョボイ等の塩生植物やウラウルモ等の水際が確認されたが、2015 年に排水工事が実施され、一部の湿地が盛んでいるため、今後とも可能性がある。
北上川のヨシ群落
北上川河口付近のヨシの刈り入れは、古くから冬の風物詩として知られる。地盤沈下と津波で多くが消失したが、左岸のヨシ原は徐々に回復しており、住民やNPO 等の活動により、再びヨシ刈りが行われている。
震災後、非耕作農地や新たな湿地が多く出現し、オオクグ等の塩生植物、ミスアオイ等の水草植物、リュウノヒゲモ等の水草といった多くの絶滅危惧種が確認された。現在は水田の増加策しが進んでいる。
長面浦
藻場や干潟が分布する汽水域。
生態系監視調査（干潟）：北上川
希少種のヤマトシジミやアリアケヒドキは震災前には高密度で確認されていたが、2014 年、2015 年調査とも個体数が激減した主要推移している。津波の直接的な影響に加え、河道地形の変化による塩分上昇、護岸工事などが影響している可能性がある。
富士沼の湿沢植物群落
津波で開乱を受けたが、震災後も希少な湿生植物の生育環境は維持されており、シャウウスツキやタジマヌリイ等の湿生植物やリュウノヒゲモ等の水草等が確認されている。
生態系監視調査（干潟）：長面浦
長面浦では地形、水環境が大きく変化した。2012 年調査で多数確認されたホソウミニナや幅在性の二枚貝類は 2015 年の時点で激減していた。震災前の汽水域は、震災後、海水の流入が増大して塩分濃度が上昇し、海水の影響に強い種が多く冬とある生態系へと変化してきている。現況では、汽水性の種が減少して震災前との共通種は少なくなり、干潟としての生物多様性は低下している。
0 1 2 km
"Includes material (c) (2014) BlackBridge AG. All rights reserved."

凡例

※2015年段階の情報を元に作成しています。

- 津波浸水域（拡大図では白枠）
- 重点エリア拡大図範囲

■海域

① 藻場
- 大型褐藻類藻場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（藻場）
- 生態系監視調査

② アマモ場
- アマモ場(2012-2013)
- モニタリングサイト1000（アマモ場）
- 生態系監視調査

③ 干潟
- 干潟(2014-2015)
- モニタリングサイト1000（干潟）
- 生態系監視調査
- 有識者による情報

■陸域

④ 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂浜）
- 砂丘（砂丘植生）

⑤ 海岸断崖地の自然植生
- 海岸断崖地の自然植生

⑥ 残存樹林地
- 残存樹林地（自然林）
- 残存樹林地（二次林）
- 残存樹林地（植林等）

⑦ 樹林跡地（モザイク状の多様な撹乱環境）
- 樹林跡地（モザイク状の多様な撹乱環境）

⑧ 湿生草原
- 湿生草原（淡水性）
- 湿生草原（塩性）

⑨ 二次草原
- 二次草原

⑩ 非耕作農地（水田雑草群落）
- 非耕作農地（水田雑草群落）

⑪ 河川・湖沼等開放水域
- 河川・湖沼

■その他重要な自然を補足する情報

- レッドリスト掲載種の生育地（植物）
- レッドリスト掲載種の生息地（動物）
  ※それぞれの種名については非公開としています
- 特定植物群落（第5回基礎調査）
  ※津波浸水域周辺のみ
- 日本の白砂青松百選
- 日本の渚百選
- 日本の音風景百選
- 日本のかおり風景百選
- 日本の快水浴場百選
- 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財遺産百選
- ガンカモ類（モニタリングサイト1000（ガン・カモ類）、ガン・カモ類の生息調査）
- シギ・チドリ類（モニタリングサイト1000（シギ・チドリ類））
- 海鳥（モニタリングサイト1000（海鳥）、生態系監視調査（海鳥））
- 社寺位置
- ジオサイト（三陸ジオパーク）
- みちのく潮風トレイル
- 重点地区調査ベルトトランセクト
- 重点地区調査地点
- 保全について議論されている区域
- 保全対策区域
- 保護区

■法規制

- 区画漁業権
- 共同漁業権
- 国立公園
- 国定公園
- 鳥獣保護区

平成 28 年 3 月発行　環境省自然環境局生物多様性センター
「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 20 万を複製したものである。（承認番号　平 27 情複、 第 1348 号）」
環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan